

気温は高い！ 細やかな温度管理で健苗育成！ 適期に移植して初期生育量を確保！！

やまがた温暖化対応米づくり日本一運動本部

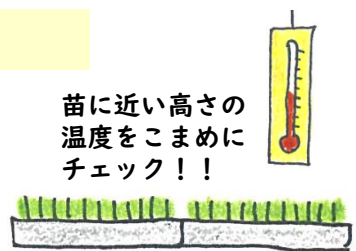
◎今後の気象

4月23日発表の東北地方の1か月予報（4月25日～5月24日）では、平年に比べて晴れの日が多く、気温は平年より高く、日照時間は平年並か多い見込みです。

◎当面の技術対策

（1）育苗ハウス内の温度変化に注意！ 苗の伸びすぎに注意！

- 曇りで気温が低くても、日中、わずかに晴れただけで育苗ハウス内の温度は急激に高まります。特に、晴天日には育苗ハウスのサイドや間口を積極的に開けて育苗ハウス内の温度上昇を抑えましょう。
- 緑化期以降、育苗ハウス等の温度は、日中は20～25℃で管理し、夜間は8℃を下回らないようにして、外気に慣らします。早めにハウス外に近い環境で管理するように心がけ、茎が太い充実した苗を作りましょう。



育苗ハウスの換気や温度管理の参考に「高温アラート」をご活用ください！
選択したアメダス地点の気温が設定した温度を上回ると、メールが届きます。
利用には、「やまがたアグリネット」への会員登録が必要です（無料）。



詳しくは
こちらから！

（2）根張りを良くする水管理

かん水は床土の乾き具合や苗の水滴の付き具合を見て判断し、午前中の早い時間にたっぷりと行いましょう。夕方や夜間のかん水は、根張りが悪くなるので避けましょう。

（3）田植えは天気の良い日に

- 田植えは、天気予報を確認し、風が弱く温暖な日を選んで適期に行いましょう。
低温や強風の日の田植えは、活着や分けつの発生の遅れにつながるため避けましょう。
- 栽植密度は生育量に大きな影響を及ぼします。収量・品質が安定的に高まる最適な栽植密度は、m²あたり20～22株です。植込本数は株当たり4～5本としてm²あたり100本程度となるように移植しましょう。

STOP! 農作業事故・農業機械はエコ運転で

春季農作業事故防止運動強化期間(4/1～6/10)

